

書 評

海老原進一郎・高木 康行・厚東 篤生 著

脳卒中ビジュアルテキスト

(A 4 164 頁 9,270 円 (税込) 1989 年 医学書院 刊)

亀山 正邦

(住友病院院長, 京都大学名誉教授)

海老原進一郎, 高木康行, 厚東篤生 3 氏の共著である「脳卒中ビジュアルテキスト」を読んだ。著者らが述べているように, 本書は必ずしも系統立てて読み進む必要はなく, 思いのままのところをめぐっても十分に内容が理解され, 知識として残るよう, よく配慮されている。ことに CT 所見を脳の解剖と血管支配の両面から, かなり細かく説明している点は貴重であり, 他に類をみない。そして, 脳血管障害の臨床・生理・生化学・病理・成因・予防・治療の面について, 最も update な知識が手際よくまとめられている。実際には,

かなり高次の神経学的分析が行われているのであるが, それが難解でなく, すんなりと身につくのである。著者らの力量のほどが偲ばれる。

各タイプの脳出血や動脈閉塞の症候が CT, 血管造影所見, 剖検所見と対比して重点的に記載されている。ことに最近の知見をふまえた解説は説得力に富む。また, メモとして小枠にまとめられた内容は, 専門的な立場からも重要である。しかも決して偏らず, 公平に記載されている。

“ビジュアル”ということになると, どうしても粗略になりがち

書 評

であるが, 本書ではあくまでも事実 に即して, 学問的に述べられている。提示されている CT 所見や病理標本の美しさは特筆されてよい。真実とはこんなにも冴えて, 人に訴えるものなのであることに気付く。

各種の症候群などについての記載もよくまとめられ, 特徴を生かしており, 人名だけをならべた無味乾燥な従来の著書とは一味ちがっている。

本書は学生や初学者を対象に書かれた本のようにみえるが, 内容の高さからみて, 専門家にとっても大いに参考になる。学生諸君ばかりでなく, 一般臨床を志している誰が読んでも, よくわかり, よく身につくように工夫されている。著者たちのはじめの意図が見事に実現された名著といえよう。

本書が広く読まれることを心から願ってやまない。